

Economic Indicators

発表日: 2018 年 12 月 19 日(水)

貿易統計(2018 年 11 月)

～下振れリスク強まる中、実質輸出は力強さを欠いた動きを続ける～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 伊藤 佑隼 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17年	3月	6,035	323	11.9	16.0	7.3	1.9	4.2	8.7	4.7	11.8	4.3	7.4
	4月	4,783	267	7.5	15.2	3.0	1.0	4.4	5.2	5.7	8.2	5.9	7.1
	5月	▲ 2,044	1,559	14.9	17.8	6.7	8.1	16.4	6.1	6.8	3.2	4.7	10.0
	6月	4,332	512	9.7	15.7	4.8	4.7	7.8	5.7	5.1	10.8	11.4	4.9
	7月	4,066	3,080	13.4	16.5	4.0	2.7	2.0	4.4	4.0	2.7	5.3	8.1
	8月	968	4,116	18.1	15.5	10.9	16.5	5.0	11.1	4.0	1.3	5.9	5.4
	9月	6,538	2,896	14.1	12.3	4.2	5.6	1.7	8.9	0.3	10.2	4.3	0.1
	10月	2,786	4,185	14.0	19.0	4.1	▲ 0.5	3.6	8.4	5.5	▲ 0.9	10.8	7.2
	11月	1,052	3,644	16.2	17.3	5.7	4.9	▲ 1.1	10.0	4.0	6.5	▲ 2.4	9.5
	12月	3,562	▲ 264	9.4	15.0	4.6	0.8	2.4	5.2	7.0	4.9	3.0	11.0
18年	1月	▲ 9,483	4,709	12.3	7.8	10.8	4.7	12.6	13.8	3.3	7.2	3.9	1.8
	2月	▲ 1	▲ 2,599	1.8	16.6	▲ 0.8	6.1	1.5	▲ 5.9	13.8	5.9	1.8	26.9
	3月	7,933	98	2.1	▲ 0.5	3.6	6.7	▲ 5.8	5.9	▲ 4.2	3.0	4.7	▲ 7.3
	4月	6,208	4,987	7.8	6.0	7.2	8.1	6.3	3.6	2.1	2.1	▲ 3.5	2.6
	5月	▲ 5,833	▲ 2,979	8.1	14.1	6.4	9.9	▲ 2.9	6.0	6.6	6.0	0.4	7.0
	6月	7,184	581	6.7	2.6	3.2	▲ 0.3	1.1	3.6	▲ 4.5	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.3
	7月	▲ 2,350	▲ 623	3.9	14.7	0.9	▲ 4.8	1.1	3.3	4.0	5.6	9.7	2.5
	8月	▲ 4,488	▲ 2,533	6.6	15.5	1.1	3.3	4.8	0.4	4.5	8.5	1.2	3.4
	9月	1,265	▲ 1,874	▲ 1.3	7.1	▲ 4.9	▲ 3.0	▲ 4.8	▲ 4.6	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 8.3	▲ 1.8
	10月	▲ 4,501	▲ 2,882	8.2	19.9	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.8	2.4	12.4
	11月	▲ 7,373	▲ 4,922	0.1	12.5	▲ 1.9	1.9	6.3	▲ 4.5	4.2	▲ 2.6	9.0	3.4

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は5ヶ月連続で赤字

11月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲7,373億円の赤字(コンセンサス: ▲6,300億円、レンジ: ▲7,369～▲670億円)とコンセンサスを下回った。

輸出金額は、前年比+0.1%(コンセンサス: +1.2%、レンジ: ▲1.0%～+5.3%)とコンセンサスを下回る結果となった。輸出価格(前年比+2.0%)が増加に寄与したものの、輸出数量(同▲2.0%)が減少したことで、前年比プラス幅は小幅なものになっている。一方、輸入金額については同+12.5%(コンセンサス: +12.0%、レンジ: +2.0%～+14.2%)と増加となった。輸入については、価格(同+7.9%)、数量(同+4.3%)ともに増加に寄与している。

季節調整値では、輸出金額(前月比▲3.0%)、輸入金額(同▲0.1%)ともに前月比マイナスとなったが、輸出の減少が輸入より大きかったため、貿易収支は▲4,922億円と前月から赤字幅を拡大させている。18年後半から原油価格の上昇を受けて輸入が高い伸びとなっていたが、11月以降原油価格は低下基調で推移している。原油価格の上昇といった価格面からの押し上げ圧力が弱まる中で、この先

輸入金額の伸びも鈍化し、貿易収支の赤字拡大傾向には歯止めが掛かると見ている。

○実質輸出は前月比▲2.7%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲2.7%（10月：同+5.1%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と前月から減少した。10-11月期平均は7-9月期を+1.0%上回っており、10-12月期は前期比プラスになる可能性が高いものの、7-9月期が前期比▲1.6%であったことを考えると物足りない結果だ。世界経済の拡大基調は続いているものの、そのペースが鈍化している中で、輸出も18年以降力強さを欠いた動きを続けている。また、米中貿易戦争の激化を始めとした下振れリスクは大きくなっており、輸出の動向は予断を許さない状況が続いている。

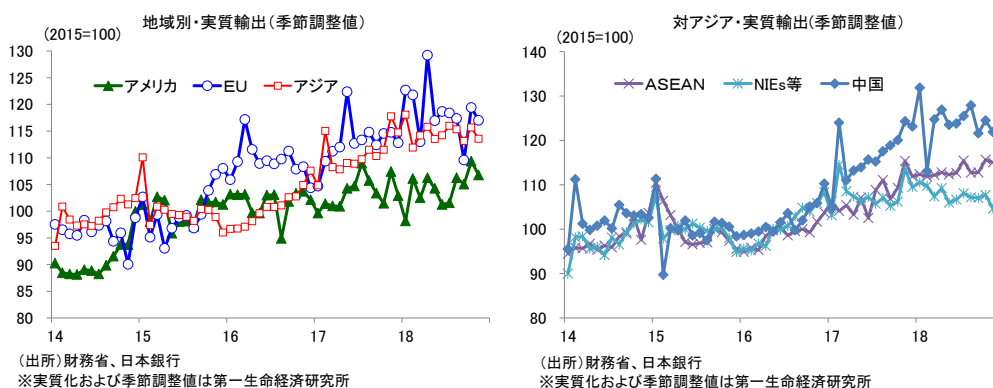
実質輸出を財別にみると、一般機械（前月比▲2.9%）、電気機器（同▲2.0%）、輸送用機器（▲3.0%）といった主要な輸出品目はそれぞれ前月から減少した。前月のレポートでもアジア向けの一般機械が弱い動きを続けていることを懸念事項として挙げたが、アジア向けの一般機械輸出は今月で3ヶ月連続の減少となっている（9月：同▲4.4%、10月：同▲1.3%、11月：同▲2.8%）。アジア経済全体の成長ペースが鈍化していることに加え、米中貿易戦争の激化による企業の設備投資の手控えもアジア向けの一般輸出の減少要因になっていると考えられる。貿易戦争による不確実性が強まり、企業の設備投資意欲が減退する中で、アジア向けの一般機械輸出が減少基調入りする可能性は意識しておいたほうが良いだろう。

○下振れリスクには引き続き要注意

以上のように、11月の輸出は前月から減少となった。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は、雇用情勢の改善や賃金が緩やかな上昇傾向で推移することに加え、個人消費が底堅さを維持することが見込まれる中で、引き続き堅調に推移するであろう。欧州経済については、昨年の成長ペースからは減速するものの、雇用・所得環境の改善が下支えとなり、底堅く推移するとみている。ただ、経済の下振れリスクとなる欧州の政治情勢には引き続き注意が必要だ。中国经济については足元で減速感が見られるが、政府による景気刺激策が維持可能な成長ペースへのソフトランディングを下支えすると見ている。

このように、世界経済は緩やかな拡大基調を維持すると見ており、輸出も世界経済の拡大基調に足並みを揃える形で推移するとみているが、米中貿易戦争を始めとした下振れリスクが強まる中で、先行きについては楽観視出来ない。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

